

縮小社会を訴え 資源を次世代に

作家 森まゆみさんも登壇

京都を中心に活動する一般社団法人「縮小社会研究会」（京都市左京区）が二日、文京区の根津教会で研究会の東京大会を開いた。約四十人が参加した。

理事長の松久寛・京都大学名誉教授（振動工学）が

文京で研究会

講演で、「『成長』という言葉は麻薬のようなもの」と指摘。「持続可能の名の下に（経済）成長率を維持することは、がん細胞が増殖するようなもの」として、資源を次世代に残すために「縮小社会というキーワードで、人々が同じ方向を向いてくれればいいと思う」と訴えた。



「暮らしに根ざした文化資源を大切にしてきた」と語る森まゆみさん。文京区根津の根津教会で

地域の営みを取り上げた雑誌「谷根千」（一九八四～二〇〇九年）の編集人で作家の森まゆみさんも登壇。「バブルと無関係に活動できたのは幸運だった」と振り返り、「要らないものは作らせない、大切なものは守る、と考えてやってきました。3・11後の今、間違っていたいなかったと思う」と話した。

（原尚子）

